

参考資料
分類名〔病害虫〕

参 10	ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の発消長
------	----------------------

宮城県古川農業試験場

要約

ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫（オオタバコガ及びツメクサガ）の発生密度は開花始期頃にピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高い。タバコガ類幼虫の発生密度は「タンレイ」より「ミヤギシロメ」で高い。

1 取り上げた理由

近年、県内のダイズほ場においてタバコガ類（オオタバコガ及びツメクサガ）幼虫が突発的に多発し葉や莢を加害するため問題となっているが、ダイズにおける発消生態については十分に調べられていなかった。そこで、播種時期が異なるダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の発消長と品種による発生密度の違いについて明らかにしたので、参考資料とする。

2 参考資料

- (1) タバコガ類幼虫の発生密度は開花始期頃にピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高い（図1）。
- (2) タバコガ類幼虫の発生密度は「タンレイ」より「ミヤギシロメ」で高い（図2）。

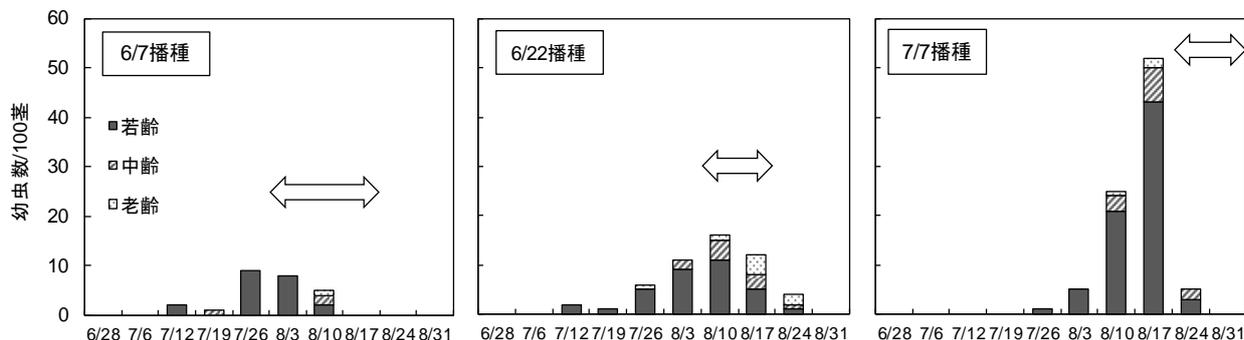


図1. 播種時期が異なるダイズにおけるタバコガ類幼虫の発消長（平成29年度）

注1) 図中の矢印は、開花始～終期を示す。

注2) 「ミヤギシロメ」における調査結果である。

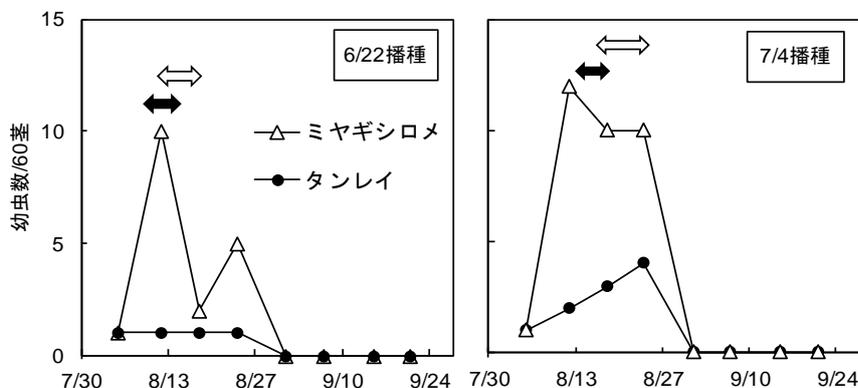


図2. 「タンレイ」及び「ミヤギシロメ」におけるタバコガ類幼虫の発消長（平成28年度）

注1) 図中の矢印は、開花始～終期を示す。

注2) 「タンレイ」は中生品種、「ミヤギシロメ」は晩生品種である。

3 利活用の留意点

- (1) タバコガ類の若齢幼虫はダイズの未展開葉を食害し、中老齢幼虫になると莢も加害する（図3）
- (2) タバコガ類幼虫の発消長は、ツメクサガが主体でオオタバコガと混発したほ場における調査によるものである（表1，2）。
- （問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5100）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立（平成28～30年度）
- (2) 参考データ

表1 ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の種構成（平成28年度）

採集日	採集個体数	オオタバコガ	ツメクサガ	死虫数	死亡要因 (%)		
					寄生蜂	カビ	不明
8月上旬	21	6	14	1	0	0	100
8月中旬	19	0	10	9	33.3	0	66.7
8月下旬	7	0	3	4	50.0	25.0	25.0
9月上旬	2	0	0	2	50.0	0	50.0
計	49	6	27	16			

注) 若中齢幼虫の種の判別を行うのは困難であるため、番外から採集した若中齢幼虫を終齢幼虫または成虫まで飼育した後、吉松（2001）に従って同定した。

表2. ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の種構成（平成29年度）

採集日	採集個体数	オオタバコガ	ツメクサガ	死虫数	死亡要因 (%)		
					寄生蜂	カビ	不明
7/28	28	3	22	3	66.7	0	33.3
8/3	31	3	18	10	60.0	10.0	30.0
8/10	42	4	17	21	81.0	4.8	14.3
8/17	48	3	11	34	76.5	0	23.5
8/24	12	1	3	8	12.5	12.5	75.0
計	161	14	71	76			

注) 若中齢幼虫の種の判別を行うのは困難であるため、番外から採集した若中齢幼虫を終齢幼虫または成虫まで飼育した後、吉松（2001）に従って同定した。



図3. タバコガ類によるダイズの被害葉（左）と被害莢（右）

- (3) 発表論文等 なし
- (4) 共同研究機関 なし